

都市再生整備計画

すいた そうしゃじょうあ とち
吹田操車場跡地地区
(都市再構築戦略事業)

おおさか 府 すいた し
大阪府 吹田市

平成30年1月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

| | | | | | | | | |
|-------|-----|------|-----|-----|----------------------|----|------|----|
| 都道府県名 | 大阪府 | 市町村名 | 吹田市 | 地区名 | 吹田操車場跡地地区(都市再構築戦略事業) | 面積 | 95.3 | ha |
|-------|-----|------|-----|-----|----------------------|----|------|----|

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|----|----|----|---|----|----|----|------|----|----|----|---|----|----|----|
| 計画期間 | 平成 | 26 | 年度 | ～ | 平成 | 30 | 年度 | 交付期間 | 平成 | 26 | 年度 | ～ | 平成 | 30 | 年度 |
|------|----|----|----|---|----|----|----|------|----|----|----|---|----|----|----|

| |
|--|
| <p>目標</p> <p>「医療機関をコア施設とする産学官民が連携する医療イノベーション拠点」の創出を目指したまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療イノベーション拠点を支えるインフラの創出 ○安心、快適な歩行者空間の確保とまちの賑わいを創出 ○緑が豊かで人々が憩い、やすらぐ空間と防災支援機能の創出 |
| <p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再構築方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための再構築方針)</p> <p>本市は、大阪府の北部に位置し、南は大阪市に接しており、東西6.4Km、南北9.6Km、面積約36平方キロメートルを占め、人口約36万人を有する都市である。</p> <p>市域北部では、計画的なまちづくりが行われた千里ニュータウンや万博公園などにおいて緑豊かな環境が形成された都市として、中央部では、土地区画整理事業による住宅地開発などにより大阪都市圏における住宅都市として、発展してきた。一方、市域南部では大阪市に隣接する立地条件の良さなどを背景に、工業や商業などの産業が集積されており、地域ごとに異なる特色をもっている。また、市民の暮らしを支える生活関連施設として、先端医療施設である国立循環器病研究センターや大阪大学医学部附属病院をはじめ、市立吹田市民病院などの医療機関が数多く立地し、市民生活の安心を支えており、さらに異なる特色を持つそれぞれの地域には、市民ホールや市民センターなどのコミュニティ施設、保育所や児童会館、デイサービスセンターなどの福祉施設、図書館や公民館などの社会教育施設、そして体育館などの体育施設がきめ細かく地域に配置し、これらの施設は、子育て支援や地域福祉の拠点として、また、市民の生涯学習や生涯スポーツの振興、コミュニティの形成に大きく寄与してきたところである。</p> <p>しかしながら、本市における産業は、事業所数、年間出荷額とも減少してきており、全体として低迷傾向を示し、工場閉鎖や移転に伴う宅地化が進む中で、既存の工場とその周辺地域とが調和した環境整備を図ることが課題となっており、また将来人口については、平成32年(2020年)ごろまでは概ね現状維持の状態が続くものの、その後は人口減少が進むと見込まれ、人口の年齢構成は、年少人口(14歳以下)と生産年齢人口(15～64歳)は、いずれも減少する一方、老年人口(65歳以上)は増加が進み、少子高齢化の更なる進行が予測されていることから、今後の社会情勢に対応した、まちの再生に取り組むことが必要となっている。</p> <p>これらの課題に対応したまちづくりを推進するため、立地適正化計画を策定し、地域ごとに異なる特色と配置された施設や地域資源等を生かすとともに、周辺地域と調和のとれた都市機能の適正な配置と維持更新を図ることにより、今後の社会情勢を見据えつつ本市の魅力やさらに高める都市構造の形成に取り組んでいく。</p> <p>当地区においては、広域的な医療も視野に入れ、周辺地域との調和や居住空間の向上、緑豊かな公共空間の創出による都市の再編を図ることとしており、これまで吹田市、摂津市にまたがる約50ヘクタールの吹田操車場跡地で、広大な跡地の利活用と鉄道による南北分断の解消を図るため、梅田貨物駅の廃止による駅機能の二分の一を受け入れ、うち約27ヘクタールにおいて吹田貨物ターミナル駅の建設を行い、またターミナル駅建設とあわせて鉄道や操車場跡地による地域分断の解消を図るため、JR岸辺駅舎の橋上化と自由通路が整備されたところである。残る操車場跡地においては、「緑と水につつまれた健康教育創生拠点」の創出を基本として、JR岸辺駅(東海道本線)に近接する交通至便な立地特性を最大限活かし、駅前広場を中心とする周辺街区(医療健康・教育文化創生ゾーン)及び機能停止した正雀下水処理場跡地を含む区域を先端医療と医療関連企業等が集積する医療イノベーション拠点として位置づけ、操車場跡地から新たな都市拠点へ土地利用転換を図るため、本地区に移転建替えを決定した国立循環器病研究センターと連携を図る総合病院として、市立吹田市民病院を本地区に移転建替えをすとともに、正雀下水処理場跡地の利活用により、産学官民が連携する医療イノベーション拠点の形成を図るものとし、アクセス向上のため、都市計画道路等を整備する。また、移転による市立吹田市民病院跡地は、今後、周辺の土地利用状況や環境に配慮した土地の利活用を図るものとする。</p> <p>また、公的不動産の活用策としては、本市が旧市街地やニュータウン誕生のさきがけとなった千里ニュータウンなど、さまざまな市街地形成の経緯や地形的条件を持つ個性豊かな地域で構成されており、都市再生の面においても、それぞれの地域に配置されている公的不動産の長寿命化や再構築などにより、成熟した土地にふさわしい安心で快適な暮らしを支える都市機能を充実させ、多世代が交流できる都市空間の形成を目指す。</p> |
| <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>○まちづくりの経緯</p> <p>吹田操車場跡地のまちづくりは、昭和62年(1987年)に旧国鉄が梅田貨物駅機能を廃止し、平成11年(1999年)1月に、梅田貨物駅の半分の機能を移転させ、残る用地を両市のまちづくりに資することなどを盛り込んだ「梅田貨物駅の吹田操車場跡地への移転計画に関する基本協定」を、平成18年(2006年)2月10日に、「吹田貨物ターミナル駅(仮称)建設事業に関する着手合意協定書」を関係5者間で交わし、吹田操車場跡地から新たな都市拠点への土地利用転換を図るまちづくりが始まった。平成19年(2007年)11月には独立行政法人都市再生機構が本市や大阪府、摂津市から土地区画整理事業の施行要請を受け、平成21年(2009年)4月には、吹田市、摂津市の2市にまたがる22.1haにおいて、吹田操車場跡地土地区画整理事業が認可され事業に着手した。そして、平成24年(2012年)4月には、岸辺駅北交通広場や鉄道を横断する自由通路の使用が開始され、JR岸辺駅の利便性が飛躍的に向上し、南北の移動の改善が図られた。</p> |
| <p>○まちづくりの現況</p> <p>緑と水につつまれた健康教育創生拠点の創出を基本として、操車場跡地から新たな都市拠点へ土地利用転換を図るため、都市計画道路や公園・緑地、ライフラインの整備を土地区画整理事業により進めてきた。岸辺駅北交通広場を中心とする周辺街区では、これまで移転誘致を進めてきた独立行政法人国立循環器病研究センターが本地区への移転建替えを決定し、また、同センターが高度医療機関としての機能を最大限発揮するため、連携を図る総合病院として、建替え時期を迎える吹田市民病院を本地区に移転することとした。</p> <p>これら2つの医療機関を中心として、本市北部に位置する大阪大学医学部附属病院とも連携を図りながら、正雀下水処理場跡地を含む区域において、産学官民が連携する医療イノベーション拠点の形成を推進するため、拠点を支えるアクセス道路等のインフラの整備や交通利便性の高い地区の特性を活かし、バリアフリーやユニバーサルデザイン、景観などに配慮した、歩行者等が安全に、かつ快適に移動できる空間の確保、市民や医療、研究に携わる者などが憩える緑豊かな空間の創出が求められている。</p> |
| <p>課題</p> <p>○本地区は、2つの医療機関が移転建て替えを行い、平成31年度(2019年度)までに開院する予定である。このため、緊急搬送路の機能を併せ持つ都市計画道路の整備や、医療イノベーション拠点として展開が予定される正雀下水処理場跡地の利活用を図るための都市基盤施設(道路、公園、ライフライン)の早期整備が求められている。</p> <p>○JR岸辺駅が橋上化され、鉄道による南北の分断解消を図る自由通路が吹田貨物ターミナル駅建設事業にあわせて整備された。駅改札に直結する自由通路から2つの医療機関に対して、歩行者が安全で快適に移動できる歩行者空間を確保すること、公共交通機関の利用を促し、景観や環境に配慮したまちの実現を図ることが必要である。</p> <p>○まちづくり交付金第1期事業により都市計画道路やまちなみにあわせて公共空間の整備を行ってきたが、土地区画整理事業の進捗にあわせ、地域住民が親しみを持って憩える空間や、地震や火災などの非常時に防災活動や救援・復旧活動の拠点機能を有する公園や道路等を整備し、市民が安全で安心して居住することが可能となる都市空間の形成が求められている。</p> |

将来ビジョン(中長期)

■吹田市第3次総合計画

この地域の基本方向を「これまで営まれてきた地域でのさまざまなコミュニティ活動と連携し住みよいまちづくり、誰もが安心して暮らせるまちづくり、防災性の向上や緑化の推進などに努め生活環境の向上を図る」とされている。また、吹田操車場跡地の整備については、「本市のみならず広域的な利用も視野に入れ、周辺地域との調和や居住環境の向上、緑豊かな公共空間の創出など、魅力的で独自性のあるまちづくりに向けて、市民、事業者の参画の下で、協働により取り組む」とされている。

■吹田市都市計画マスタープラン

都市機能の立地誘導と景観整備による拠点市街地の充実、地区の特性に応じた多様な住宅地の創出、人と河川とのふれあい空間の整備が重点方針とされている。

■東部拠点まちづくり計画

高次都市機能を有する広域的・戦略的な都市拠点として、独自性の高い中核機能として医療・健康機能、教育・文化機能の導入を目指します。また、JR岸辺駅前に形成する地域拠点として、駅前にふさわしい都市機能の導入を目指すとともに、周辺地域との調和と連携、地域の利便性向上やにぎわいづくり等に資する多様な都市機能の導入を目指す。

都市再構築戦略事業の計画

都市機能配置の考え方

本市は、昭和30年台の高度成長期に入り、千里ニュータウンの建設をはじめとした宅地開発とそれに伴う都市基盤の整備が進むとともに人口が急激に増加し、昭和45年(1970年)に開催された日本万国博覧会に関連する高速道路の整備により、名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道の結節点を有することとなった。市域から10Km圏内にはJR新大阪駅や大阪国際空港(伊丹)が位置しており、遠隔地との交通の便に優れ、また、国道をはじめとする幹線道路や複数の鉄道路線が市内を通るとともに、多くの鉄道駅があり、大阪都心部や近隣都市との間の移動を容易にしている。更に、市域内には、4つの大学や国内でも有数のライフサイエンス研究機関が立地し、市域全体として充実した文化・学術・研究環境が形成されている。吹田操車場跡地においては、鉄道を横断する自由通路により岸辺駅と直結された岸辺駅北駅前広場を中心とする医療健康・教育文化ゾーンにおいて、国立循環器病研究センターが移転建て替えを決定、同センターと医療連携を図る総合病院として、中心拠点誘導施設となる市立吹田市民病院の移転建て替えを行い、同ゾーンと機能を停止した正雀下水処理場の跡地を活用するため、医療健康教育文化ゾーンと処理場跡地を企業立地促進法に基づく「関西地域健康長寿関連産業広域基本計画区域」、「大阪北部産業集積形成基本計画区域」に指定し、更に、今後、同地を「関西イノベーション国際戦略総合特区」の区域に編入することにより、国立循環器病研究センターを中心とし産官学が連携する医療イノベーション拠点の創出を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な中心拠点誘導施設及び生活拠点誘導施設の考え方

・中心拠点誘導施設(医療施設):市立吹田市民病院

市立吹田市民病院は、急性期医療、高度医療及び救急医療の提供を中心に、地域の中核病院としての機能を発揮することが期待されている。

このような中、市立吹田市民病院は、医療イノベーション拠点となる医療健康・教育文化ゾーンに移転建て替えする国立循環器病研究センターと連携を図る総合病院として、中心拠点誘導施設に位置づけ、本地区で移転建て替えを行い、これら2つの医療機関を中心として、本市北部に位置する大阪大学医学部附属病院とも連携を図りながら、医療イノベーション拠点の形成に寄与する。

都市再生整備計画の目標を達成するために必要な交付対象事業

■低炭素まちづくり計画(平成27年3月策定)

正雀下水処理場跡地においては、周辺道路の拡幅整備や近接する公園の拡張により、跡地利用の環境を整えるとともに、定期借地権や適用可能な補助事業等の活用により民間事業者等の進出意欲の向上を促し、産学官民が連携する医療イノベーション拠点形成の推進を図る。

目標を定量化する指標

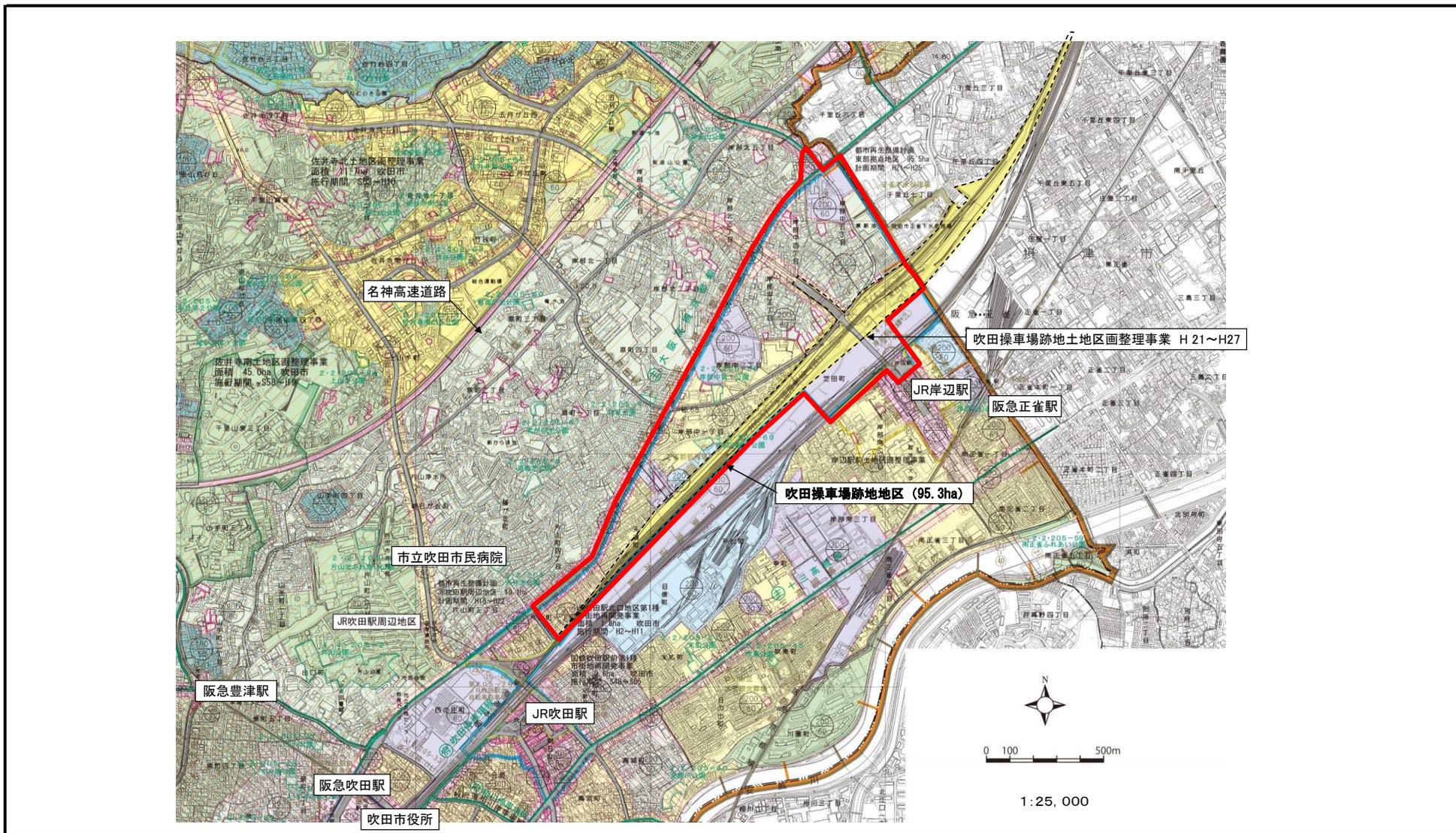
| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | | 従前値 | | 目標値 | |
|---------------------------|-----|-------------------------------|---|-----|--------|------|--------|------|
| | | | | | | 基準年度 | | 目標年度 |
| 市民病院の通院所要時間の満足度 | % | 意識調査を行い、市民の満足度を確認する。 | 通院所要時間の満足度向上により、医療イノベーション拠点を支えるインフラ整備の効果測定ができる。 | 25% | 平成22年度 | 30% | 平成30年度 | |
| 歩行者にとっての道路の安全性満足度 | % | 意識調査を行い、市民の満足度を確認する。 | 道路の安全性満足度向上により、安心、快適な歩行者空間の確保の効果測定ができる。 | 18% | 平成22年度 | 21% | 平成30年度 | |
| 木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度 | % | 意識調査を行い、市民の満足度を確認する。 | 緑の量によるまちへの愛着度の向上により、緑が豊かで人々が憩い、安らぐ空間の創出の効果測定ができる。 | 12% | 平成22年度 | 17% | 平成30年度 | |
| 地震や水害などに対する防災の満足度 | % | 意識調査を行い、市民の満足度を確認する。 | 地震や水害に対する防災の満足度の向上により、防災支援機能の整備効果が測定できる。 | 14% | 平成22年度 | 17% | 平成30年度 | |
| この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合 | % | 意識調査を行い、市民の運動・スポーツの実施状況を確認する。 | あまり運動・スポーツをしなかった人を減らすことにより、市民自ら予防医療を実践できる「健康増進広場」の整備効果が測定できる。 | 51% | 平成22年度 | 48% | 平成30年度 | |

様式2 整備方針等

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|--|
| <p>【医療イノベーション拠点を支えるインフラの創出】 医療イノベーション拠点の中核施設となる国立循環器病研究センターが市立吹田市民病院と医療連携を図り、同センターを中心とする産学官民が連携する医療イノベーション拠点として正雀下水処理場跡地の活用を図るため、周辺道路の拡幅整備及びアクセス向上のための都市計画道路を整備し、交通便利性の向上と歩行者の安全な通行空間を確保する。また、整備路線は、電線類の地中化を図り、無電柱化により災害時における緊急搬送路の確保を行う。 まちづくり交付金第1期事業に引き続き、「緑のふれあい交流創生ゾーン」を土地区画整理事業の進捗に合わせて、通常は多目的広場として、災害時には避難や救援支援空間として、耐震性貯水槽を備えた防災機能を兼ね備えた空間を整備し、あわせて周辺地域からの円滑な避難等が可能となるよう、土地区画整理事業により用地を確保した道路の整備を行う。</p> | <p>中心拠点誘導施設(医療施設)：市立吹田市民病院 道路：区画街路1号線、区画街路2号線、岸部中千里丘線(吹田市域分) 関連事業：岸部中千里丘線、岸部中千里丘線(摂津市域分)、国立循環器病研究センター建替え事業</p> |
| <p>【安心、快適な歩行者空間の確保とまちの賑わいを創出】 安心、快適な歩行者空間の確保を図るため、JR岸辺駅改札に直結する自由通路から市民や来街者が直接2つの医療機関へ安全、かつ、快適に移動できる空間を確保するため、駅前広場上部に自由通路と連絡する公共通路を整備し、バリアフリーやユニバーサルデザイン、景観などに配慮した、快適な移動空間を確保するとともに、単に歩行者の快適な移動空間だけでなく、まちの中心となるJR岸辺駅に人が集うことも踏まえ、待合、交流や啓発活動などでの利活用が可能なゆとりある空間として、まちの賑わい創出を図る。また、都市計画道路岸部中千里丘線や正雀下水処理場跡地の周辺道路においては、自転車や歩行者の安全で快適な通行空間を確保する。</p> | <p>地域生活基盤施設：岸辺駅北公共通路 関連事業：吹田操車場跡地土地区画整理事業</p> |
| <p>【緑が豊かで人々が憩い、やすらぐ空間と防災支援機能の創出】 緑豊かな憩い、安らぐ空間の確保を目指し、「緑のふれあい交流創生ゾーン」を、まちづくり交付金第1期事業に引き続き土地区画整理事業の進捗に合わせて、通常は多目的広場として、非常時には避難や救援支援空間として、防災機能を兼ね備えた空間を整備する。また、「緑のふれあい交流創生ゾーン」に隣接する街区公園と一体的に整備することにより、連続した1ヘクタールの緑空間を確保し、緑の遊歩道との連携を深めるとともに、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の協力・監修を受けながら、循環器予防を中心とする健康づくりに資する多種多様な健康遊具を設置するとともに、それらの効果的な利用などにより、市民自ら予防医療を実践できる我が国トップレベルの「健康増進広場」を整備する。</p> | <p>公園：1号街区公園 地域生活基盤施設：1号緑地、緑のふれあい交流創生ゾーン多目的広場、耐震性貯水槽、緑のふれあい交流創生ゾーン健康増進広場</p> |
| 事業実施における特記事項 | |
| <div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div> | |

都市再生整備計画の区域

| | | | | |
|-------------------|----|---------|----|---------------------------------------|
| 吹田操車場跡地地区(大阪府吹田市) | 面積 | 95.3 ha | 区域 | 吹田市岸部中1～5丁目、天道町、岸部新町の全部と片山町1丁目、芝田町の一部 |
|-------------------|----|---------|----|---------------------------------------|



吹田操車場跡地地区(大阪府吹田市) 整備方針概要図

| | | | | | | | | |
|----|---|--------|---------------------------------|----|---------|---|----|---------|
| 目標 | 医療機関をコア施設とする産学官民が連携する医療イノベーション拠点の創出を目指したまちづくり | 代表的な指標 | 市民病院の通院所要時間の満足度 (%) | 25 | (H22年度) | → | 30 | (H30年度) |
| | | | 歩行者にとっての道路の安全性満足度 (%) | 18 | (H22年度) | → | 21 | (H30年度) |
| | | | 木々や草花などの緑の量によるまちへの愛着度 (%) | 12 | (H22年度) | → | 17 | (H30年度) |
| | | | 地震や水害などに対する防災の満足度 (%) | 14 | (H22年度) | → | 17 | (H30年度) |
| | | | この一年間あまり運動・スポーツをしなかった人の割合 (%) | 51 | (H22年度) | → | 48 | (H30年度) |

